

ふくふくファンド 2009 年度 助成事業報告書

2009 年 4 月 30 日

団体名（ふりがな） 特定非営利活動法人アマニ・ヤ・アフリカ
（とくていひえいりかつどうほうじん あまに・や・あふりか）

事業名 活動成果集約・情報公開ツール新プロジェクト
「これまで以上に地域に根差し、世界に眼を向けたアマニ・ヤ・アフリカを目指して！」

助成金を使って行った事業について、記述してください（活動の様子の写真がありましたら添付してください。また、関連資料がありましたら別途お送りください）。

企画1.

「団体設立からの12年をふりかえり→想いの共有→10年後の未来像を描く」

団体ミーティングの実施

<ミーティング実施日>

日付	場所	人数	ミーティング内容
10月29日（木）	団体事務所	6名	定例ミーティング
11月2日（祝）	団体事務所	3名	HPについて担当者打ち合わせ
11月4日（水）	団体事務所	8名	定例ミーティング
11月11日（水）	団体事務所	10名	定例ミーティング
11月18日（水）	団体事務所	6名	定例ミーティング
11月23日（月）	団体事務所	2名	ネットワークについて担当者打ち合わせ
11月25日（水）	団体事務所	8名	定例ミーティング
12月2日（水）	団体事務所	5名	定例ミーティング
12月9日（水）	団体事務所	6名	定例ミーティング
12月12日（土）	せんだい・みやぎNPO大町事務局	7名	メンバー対象の勉強会開催 『団体発展の為の情報戦略～IT活用術～（ブログ、HPなど）』講師
1月20日（水）	団体事務所	4名	定例ミーティング
1月27日（水）	団体事務所	6名	定例ミーティング
2月3日（水）	団体事務所	5名	定例ミーティング
2月10日（水）	団体事務所	6名	定例ミーティング
2月17日（水）	団体事務所	6名	定例ミーティング
2月24日（水）	団体事務所	5名	定例ミーティング
3月3日（水）	団体事務所	3名	定例ミーティング
3月24日（水）	団体事務所	6名	定例ミーティング
3月31日（水）	団体事務所	5名	定例ミーティング
4月7日（水）	団体事務所	6名	定例ミーティング
4月14日（水）	団体事務所	6名	定例ミーティング
4月21日（水）	団体事務所	6名	定例ミーティング
4月28日（水）	団体事務所	7名	定例ミーティング

この企画1のテーマは

「団体の活動メンバーが、団体設立からこれまでの活動の歩みを振り返り、活動が始まった経緯や活動理念、成果、自分たちが持っている情報を共有し、「次の10年後」の未

来像を描く」ということである。

まず、毎週水曜日に行っている普段のミーティングのやり方を見直すことから始めた。

- ①議事録をつける。
- ②ミーティングの内容を事前にメールリストで知らせる。
- ③ミーティングの報告をメールリストで行う。

基本的な事だが、ここから始め、スタッフ 1 人 1 人の意識改革を行った。

企画1によってできた事

- ①ミーティングのやり方を見直すことができた。
- ②議事録をつけるようになった。
- ③紙媒体でなくても、メールリスト内で必ず、事前にミーティングの内容、ミーティングの報告について情報を共有することができるようになった。
- ④スタッフ・ボランティア 1 人 1 人が、当団体のこれまでの活動をしっかり理解し、皆が団体の趣旨・目標を理解することができた。
- ⑤これまでの活動を振り返ったことで、この先 10 年後の未来像・目標を話し合うができ、メンバー内での活動への意識や意欲が高まった。
- ⑥この助成金で行う他の活動をスムーズに進めることができた。
- ⑦ボランティアシートをつくることによってネットワークを構築した。会員情報も紙面からデータ化することができた。
- ⑧ミーティングを重ねる中で情報を整理することができ、具体的には、短期の活動計画表などをまとめることができた。
- ⑨このようにミーティングを行っていくことによって、メンバー 1 人 1 人が団体の一員であるという意識が高まり、ミーティング以外の時間はメールで連絡を取り合い、個々の活動や連絡のやりとりが見えるようになってきた。

〈総括〉

ミーティングやメールリスト内で活動メンバー全員が意識をして「相手」に伝わるように情報を整理して行くことは、結果的にメンバー同士での情報共有にもなるし、事業報告書や決算書を作る時も年度末に慌てなくてもよくなる。なおかつ、タイムリーな情報を欲しい、まだ出会っていないメンバーや、当団体に寄付したいと思っている方、当団体と協働したい企業と出会う為の非常に大切な活動の一つだということがわかった。

団体設立からこれまでの 12 年間を振り返り、活動メンバー全員が団体のこれまでの経緯を知ることで、この先 10 年後の未来を描くスタートになると実感できた。

企画1で実施予定だったができなかったこと。

- ①10 年後のアマニ・ヤ・アフリカの未来像について意見を出し合うことはできたが、それを実際に長期計画にまで落とし込むことができなかった。

〈総括〉

ミーティングを実施し、未来像を描いていく過程で、地域でこれまでお世話になった方々にもっと深いヒアリングを行い、実際に計画に落とし込んで、これまで以上に

地域に根差した国際協力活動を展開できるように検討していきたいと思う。



ミーティング風景（2009年12月2日）

企画2. 会の発足から、これまでに行った活動や想いをまとめた活動成果集約「アマニ・ヤ・アフリカ 12年の歩み」の作成

※添付した活動成果集約書のサンプルを参照してください。

活動成果集約書作成に当たり、こだわった内容

- ①原稿関係は、原稿を書いた人の“らしさ”“カラー”が活かせるよう、あまり構成を加えないこととした。
- ②第一部～第八部までの構成分け及びタイトルは、読む人にわかりやすくするため、また一般的な書籍（記念誌）構成に基づいて作成した。
- ③「写真で見るアマニ・ヤ・アフリカ 12年のあゆみ」の部分は、読む人の興味を引くよう、主導的に写真校正及びコピーを作成した。
- ④アマニ・ヤ・アフリカの活動イメージが読み手に広がるよう、活動場所での撮った写真を多数使用した。
- ⑤アマニ・ヤ・アフリカの活動をわかりやすく伝える為、見開き1枚目を活動内容のインデックスにして、そこから自分の興味がある情報を見もらうようにした。

〈総括〉

これまでの12年間の記録と思って始めたが、企画をしていく中でこれまでの経過がいろいろ思い浮かび、記憶というものはすごいなということを感じた。また、この12年間で本当に多くの人達にお世話になったことを改めて感じさせられた。

この活動成果集約書は、会員、または一般向けであるが、作成段階において当団体の活動メンバーが、この12年間の活動を振り返り、活動趣旨・目標を改めて確認して10年後の目標を見据えることも重要な目標であった。それができた事は非常に嬉しい。

企画3. 情報公開ツールの一新 ①新しいリーフレットの作成

※添付した新しいリーフレットのサンプルを参照してください。

リーフレット作成に当たり、こだわった内容

- ①この機会にアマニ・ヤ・アフリカの会員制度を見直し、利用しやすいようにする。
- ②リーフレット内で、会員をアマニ・ヤ・アフリカ応援団と呼び、親しみやすいようにした。また、会費の額も幅をもたせて入りやすいように設定することができた。
- ③リーフレットを開いた時にアフリカがイメージできるよう、現地の写真を多数使用した。
- ④ただ情報を伝えるだけのリーフレットではなく、そのリーフレットを読んで一緒に活動していきたいようになるように構成した。

<総括>

これから出会う、まだ当団体を知らない人達に、いかにわかり易く情報を伝え、一緒に活動できるかを中心に考えてリーフレット作成を進めていった。

写真を多く使用したことで親しみやすさも加わり、このリーフレットで当団体をよく知ってもらえると思う。

企画4. 情報公開ツールの一新 ②新HPの作成

下記のマイナーチェンジしたホームページ（HP）を参照してください。

<http://amani-ya.com/>

取り組めた内容

- ①3月に仙台でコラボレーションイベントを実施したアーティスト、ミヤザキケンスケさんより頂いたアフリカの絵をトップページに組み入れた。
- ②NPO法人の定款をHPに入れた。
- ③CANPANで作成した団体ブログとリンクを貼り、情報発信をブログ中心にすることができた。

<総括>

申請書においては、WEBデザイナーの協力を仰ぐということを検討している旨を書いたが、メンバー内で1から作り上げる方向に変更した。理由は、お願いする予定のWEBデザイナーの方が作った内容にメンバー自身が対応できない。自分たちで情報を更新できない可能性があった為。

もっとHPを良くしたいという想いはあったが、メンバー各人の技術の問題からまだ希望通りのHPまでには至っていない。

企画5. 情報公開ツールの管理体制の確立

情報公開ツールの管理体制が完全に確立される所までは辿り着くことができなかった

が、以前よりも土台構築ができた実感している。

土台構築できたといえる内容

- ①団体HPについては、今までは一人のみが管理をしていたが、他にも数人のメンバーが管理して行くことが決まった。
- ②HPの完全リニューアルができていないが、数人のメンバーが、更新する技術を獲得することができた。
- ③HP 作成、更新の意志や関心があるメンバーと定期的に集まれるようになった。
- ④それぞれが個人で動いている活動について、メーリングリスト上で情報共有する割合がとても多くなり、誰が何をしているのかがそれぞれわかるようになった。
- ⑤月1回の活動のふりかえりや集約も少しずつ、ブログを通した情報発信も含めてメンバーでも共有できるようになった。

確立するためのこれからの課題

今後は、管理をしていくメンバーから情報発信がきちんとされているかどうか、情報の更新がされているかどうかをチェックする人、チェックする期間を決める。

毎日の情報発信は難しくても、動きがあった時には必ず情報を発信する体制を習慣化させていくことが課題であり、各人の情報更新技術を高めるための勉強会等も定期的に関くべきである。

◎複数の団体の協働やボランティアの参加について

企画1 「団体設立からの10年をふりかえり→想いの共有→10年後の未来像を描く」
団体ミーティングの実施

今回、この助成事業を申請することで、せんだい・みやぎNPOの方と接点を持つことができ、また、せんだい・みやぎNPOの厚意で情報発信についてのノウハウを教えていただける機会、勉強会をメンバー対象に行うことができた。

これまでは目の前のイベント実施に追われ、優先順位を下げていたのが実情だったのだが、わかりやすく情報発信の重要性を解説してくれた。

企画2 会の発足から、これまでに行った活動や想いをまとめた活動成果集約書「アマニ・ヤ・アフリカ10年間の歩み」の作成

普段からアマニの活動に協力してくれている業者に今回の活動成果集約書印刷をお願いした。本来であるならば、本をつくりあげるといふ構成作業は、素人の私たちでは製本から印刷まで1年かかってもおかしくない所を、今事業の達成の為に、メンバーの1人が本職であるという事から無償で、しかも1ヶ月で仕上げてくれた。

また、この本の完成のために、これまでお世話になった地域の方々、国際協力団体の方々に寄稿をいただいた。

あらためて、私たちの活動が皆様のお力添えのおかげだということを改めて実感した。

企画3 情報公開ツールの一新 ①新しいリーフレットの作成

リーフレット作成に関しては一般の印刷業者に印刷を発注した以外は他団体やボランティアとの協働は無かった。

企画4 情報公開ツールの一新 ②新HPの作成

申請書においては、WEBデザイナーの協力を仰ぐという事を検討している旨を書いたが、お願いする予定のWEBデザイナーの方が作った内容にメンバー自身が対応できない、自分たちで情報を更新できない可能性があった為、メンバー内で1から作り上げる方事になった。従って、協働を実現する事はできなかった。

しかし、3月に実施したイベントで当初予定していたWEBデザイナーではない、新たなWEBデザイナーの方と出会い、交流が続いている。

その方は、メンバー自身が更新できるようなデザインを提案してくれている為、4月以降になるが、継続してHPのリニューアルにむけて協働の方向性を探っていきたいと考えている。

企画5 情報公開ツールの管理体制の確立

上記の企画④の通り、WEBデザイナーとの新たな交流が続いております。

◎当初の事業目的の達成について

この助成事業の大きな目標は、「さらに地域に根差した活動をしていくために、団体内でこれまでの活動を振り返り、メンバーが10年後の団体のあり方を見据えることができるようになる。」と言うものだった。

この大きな目標は、12年間の活動の振り返りや、10年後を話し合った後にしっかりと長期的な計画に落とし込むことができなかつたという点で達成できたとは言えないが、企画1のミーティングを行っていく中で、メンバー同士の意識の高まりを感じ、企画2の活動成果集約書作成段階では皆が当団体の足跡をしっかり振り返っていることを実感した。

達成度は60%と評価。

企画3の新リーフレット作成に関しては目標通り達成できたと思われるが、企画4・5のHPでの情報公開、情報発信ツール作成に関しては、志半ばと言った所である。

HPに関しては、各人のパソコンに関する知識や技術が必要である為、どんどん勉強会等を開くことで達成できると思われる。

達成度は50%と評価

◎本事業を通して言える団体の課題、その課題解決について

全体的に、メンバーの意識・目標設定はできて来たが、情報公開に関しての技術がまだ追いついていない。団体内で勉強会を開いて、個々の技術向上が課題である。

また、ミーティングに関して、新しい運営メンバー、ボランティアが多く入ってくることのできる雰囲気作りが必要だと感じる。

その為には、ミーティングの雰囲気がマンネリ化しないような策が必要であり、レクリエーションや他団体との交流が必要だと思われる。

今回の事業によって、団体全体の活動にどのような成果・効果がありましたか

[団体]

①メンバー内で活動の理念・目的・思いを共有できた事で、各人が自分の活動していることに対して自信を持つことができるようになった。

②ミーティングが定着したことで事務作業等の分担がスムーズになった。

[団体の活動する地域・日本]

①リーフレットや HP がわかりやすくなることで、国際関係に興味のある日本の方や県内の方に活動の様子、現地の生活をより正確に伝えることができるようになった。

今回の事業を、今後どのように展開していきますか。その際に必要なものは何ですか。

①今回行った事業で得た団体としての12年の振り返り、10年後の目標を、今後活動に参加してくれる新しいメンバーにも伝えていき、長期的な目標をしっかりと計画に落とし込んで行きたいと思う。そのためには、メンバー各人が担当する分野をはっきりさせる必要がある。

②この助成事業を行った事で上がったメンバー同士の士気や、得た人脈を十分活用し、一般の人にわかりやすいHPを目指して行きたいと思う。
各人のパソコンを扱う技術が不十分であるため、今後も勉強が必要である。

助成金の使途内訳（具体的に記入してください）

収入の部

項目	金額（円）	内訳
助成金	100,000円	ふくふくファンド
団体負担金	64,810円	自己資金
合計	164,810円	

支出の部

項目	金額（円）	内訳
会場費	0円	全て事務所
活動報告書制作費	150,000円	B5判 35Pの冊子 200部
リーフレット制作費	14,600円	A4判三つ折りリーフレット 3000枚
振り込み手数料	210円	リーフレット代金支払い手数料
Web制作費	0円	申請時より変更有 報告書 企画4参照
合計	164,810円	

宮城県労働者福祉協議会様へのメッセージをどうぞ。

今回の事業は、私たちアマニ・ヤ・アフリカの歴史において、そしてこれからの未来に向けて、節目となる事業となりました。本事業は、単に活動成果集約物を作り、リーフレットや HP を刷新するだけではありません。これまでの活動をメンバー自身がふりかえり、組織を見直して、次の 10 年に向けて展望を明らかにしました。そして、私たちがもっている情報と活動や成果をよりわかりやすく市民に向けて発信していく土台・システムをつくることができるようになりました。それは同時に私たちと同じ考えを持っている新しい仲間、ボランティアを集めることができます。また、新たに協同・協働して取り組む地域やその他の団体とのネットワーク構築にもつながっています。

その意味で、宮城県労働者福祉協議会様には大変感謝をしています。このような取り組みで是非今後とも市民活動全体の発展に寄与されることを願っています。ありがとうございました。